



みのり

発行所 金光教寝屋川教会

〒572-0037 寝屋川市葛原新町 1-11

TEL 072-829-5129

Eメール koichiyasui@yahoo.co.jp

神のおかげの中に生まれ、 おかげの中で死んでいく

『神のおかげで生まれてきた人間であるから、死ぬのも神のおかげでなくては死ねるものか。そうであるから、生まれたのがめでたいなら、死んで神になるのは、なおのことめでたいことではないか。死ぬのがつらいと言うのは、まだ死ぬのをいとわないだけの安心ができていないからである。信心して、早く安心のおかげを受けておかねばならない。……』(天地は語る 58)

夏季信行期間を無事に終え、8月を迎えることができ、有難いことに存じます。

さて、7月の大阪府連盟布教部の講案では、お道の信心の在り方に関わって、二人の学者(大学教授)の研究が取り上げられていました。その一つは、「ハレ」と「ケ」という日本人の生活習慣について、二つ目は利他主義の効用についてでした。

日本の古くからの生活習慣の中に、「ハレ」と「ケ」という考え方があります。7月には祇園祭や天神祭がにぎやかに催されます。普段とは趣を異にして、ハッピーや浴衣を着たりして、子どもたちも着飾ってお祭りを楽しむ、それが「ハレ」の日のお祭りの風景です。晴れ着とか、晴れ姿という言葉もありますが、それは平常とは違った、特別な日を意識したものです。単に天気が良く、晴れているというだけでなく、神様の力が満ちてあふれている状態、それ「ハレ」の日として、祝っています。「ケ」とは、元気さとかエネルギーを指し、「ケガレ」とは、ケが枯れるという意味で、「ハレ」とは真逆に、元気がなくなる状態のことで、その究極は「死」ということです。日常を「ケ」とすれば、「ハレ」は、非日常の特別な日です。

このお道では、「忌み穢(けが)れは、わが心



で、犯すこともあり、はらうこともあり」と教えられ、「死」を穢れとは言いません。むしろ、生きている時に人助けに努め、日々を大切に感謝(和らぎ喜ぶ心)で過ごし、身代(仕事や財)、人間(徳、信用)、達者(健康)の上におかげを受け、世のお役に立たせて頂くこと、これが神様の人間にかけられた願いであります。また、「おかげはたらいの水じゃ。向こうへやろうとすれば、こちらへ来る。こちらへ取ろうとすれば、向こうへ行くぞ」とも教えられ、それはある意味で、我情我欲を放し、利他的に生きることです。ある学者が調べたところ、利他的な心の持ち主ほど、経済的にも豊かな暮らしが享受できているのだそうです。不思議ですね。

「今月今日で一心に頼め、おかげは和賀心であり」と天地書附にあり、私どもが信心しておかげを受ける根本を教えてくださいました。その「今月今日」とは、祭り日のことを指していたようですが教祖は、「日が暮れたら大晦日と思い、夜が明けたら元日と思うて日々うれしゅう暮らせば、家内に不和はない」と、毎日、毎日が、「ハレ」の日であることを、願ってくださっています。

「天地書附を体する」と、お道ではよく言いますが、このような信心生活を指して、言われているのだと思います。

このようにして日々に信心を進め、「生きておる時に神になりおかずして死んで神になれるか」との教えの実践者として、共々におかげを蒙らせて頂きたく願っております。

(教会長)

月例霊神祭時の宣教

日時 7月19日（日）14時より

講師 大阪府連盟布教部講師

河内松原教会長 前田俊一 師

講題 『神様に身を任せる』



日本人の古くからの生活習慣に、「ハレ」と「ケ」という考え方があります。「ハレ」は、非日常のお祭り日、「ケ」は、普段どおりの日常の日。「ケガレ」というのは「ケ」（元気）が枯れるという意味です。それがケガレ＝けがらわしい、に意味が転嫁しました。

金光教祖は「今月今日で一心に頼め」と、日に日に新たに信心を進め、毎日がいわば「ハレ」の日であるようなおかげを受けよと教えられました。

ある学者の説によりますと、信仰深い人は人の助かりを願い、利他的な生き方をする結果、それが自らの経済生活を比較的に豊かにしていると統計上に表れているとのことです。

難波教会の手続き関係では、『参る、聞く、行う』との信心指針を大切にしております。私たちは少しでも足しげく教会に参拝し、お取次を願い、御教えを聞き、毎日の生活の上にそれを踏み行い、信心の稽古を進め、おかげを受けてまいりたいものです。

わたしの母は近年、骨粗しょう症が重くなり、右膝

の関節の軟骨がすり減り、人工関節の手術を受けました。その後、筋肉を強くすることが大切と、退院後も家の中でリハビリを続けていましたが、今度は外に出た時に転げてしまって、左脚の大腿骨を骨折してしまいました。母は、気持ちまで沈んでしまいました。

私もまた、母のことをあまり祈らずに過ごしてきたことに気づき、共にお礼とお願い、お詫びをさせて頂くように努めています。リハビリ専門病院に入院した母は、テレビも見ないで心身ともにすっかり弱っていました。

祈りの中で、1日3回のリハビリを受けつつ、段々に回復してきて、近頃ではテレビを見るように意欲が出てきて、心身ともに元気のおかげを頂いてきています。

良い病院に入院させて頂き、親切な介護を受け、日に日に生かして頂いていることを神様に感謝し、ここからの立ち行きを一心に祈り、その上は神様にお任せするという心境になって、おかげを頂いています。

私たちは、毎日毎日が「ハレ」の日となるように、心と体におかげを受け、共に信心を進めさせて頂きたく願っています。

令和8年教会の願い

金光様、日々有難うございます。

御教えをもとに

辛抱強く信心の稽古に努め

身代、人間、達者の上におかげを受け

ご神願成就のお役に立たせてください。

生きることにすばらしい

一年に分限者になるような心になるな

先は長いぞ

いちもんにもん

一文二文とためたのは

みてる（尽きる）ことはないが

一時に伸ばしたのはみてやすい

神信心をすれば 我慢我欲はできぬぞ

ぬれ手で粟のつかみ取りの気を持つな

人より一年遅れて分限者になる気でおい

理解 111 金光教祖御理解 83

いつの時代も、人間は何かにつけて、人目を気にして生きているようです。その傾向は、今の世の中、非常に顕著に現われています。リストラや雇用縮小、倒産が進むこの競争社会の中で、生き残っていくには、自分を売り込むのに、誰も見ていないところで頑張ることを、ばからしく感じてしまうからです。それは、「無駄な努力」としか思えないのでしょう。

残業、アルバイト、掃除など、一人で一生懸命やっていて、そろそろ終わるという頃に、変な欲が出る。せっかくだから、「この姿を誰かに見てもらいたい」といった気持ちが湧き出て来る。そして、しばらく粘るけれども誰も来ない。ようやくあきらめて、やめたとたんに人が来る。こんな体験、誰しも一度や二度はあるでしょう。

誰が見ていなくても、神様は、しっかり見ておられます。だから、「無駄な努力」なんてことは、この世に存在しません。その努力は、形はどうであれ、必ず報われるのです。その場で直接認めら

れなくても、その蓄積された子不ルギーは、後々、大きなパワーとなって自分を支えてくれます。

人にでなく、神様に認めてもらうように心掛ければ、ずっと広い視野や豊かな心が得られることでしょう。小手先の要領で世渡りするよりも、「本物」を目指して生きてみませんか。

（天王寺教会発行『生きることにすばらしい』

第2集抜粋）



金光教大阪府第五教会連合会
青少年育成部からのお知らせ

歌・ダンス・演奏 等

出演者募集!!
します!

5連フェスティバルのステージで
歌やダンスや楽器演奏等で
ご出演下さる方を募集いたします。
個人でもグループでも構いません。
共に嬉しく楽しく有難く、
お役に立たせて頂きましょう!

日 時 : 11月29日(日)
出演時間は改めてご案内します。
場 所 : 玉水記念館 大ホール
申し込み : 各教会の教会長までお届け下さい。
締め切り : 8月末
(なるべくお早めをお願いします)



8月の予定

日	曜	教会行事	教会長、その他	日	曜	教会行事	教会長、その他
1	土	月頭祈願祭 (14時)		16	日	月例霊神祭 (14時)	
2	日			17	月		
3	月			18	火		
4	火			19	水		
5	水		布教部会 (13時30分)	20	木		
6	木			21	金		
7	金			22	土		
8	土	月例金光大神祭 (14時)		23	日		
9	日			24	月		
10	月			25	火		
11	火			26	水		第五企画委員会 (14時・放出教会)
12	水			27	木	みのり編集会議 (10時40分)	
13	木			28	金		難波教会祭員 (14時)
14	金			29	土		
15	土		教会奥城参拝 (10時30分出発)	30	日		
				31	月		

8月のご霊神様

柴田カズエ姫乃霊(昭和59年8月2日帰幽)
 古川友一翁乃霊(昭和63年8月6日帰幽)
 早子幸利翁乃霊(平成15年8月12日帰幽)
 早子太一彦乃霊(昭和3年6月22日帰幽)
 児島哲良彦乃霊(平成7年8月25日帰幽)

増満トク姫乃霊(昭和21年8月4日帰幽)
 竹本鶴吉翁乃霊(昭和20年8月8日帰幽)
 溝田卯七翁乃霊(昭和56年8月15日帰幽)
 今實彦乃霊(昭和17年8月25日帰幽)
 植田菊一彦乃霊(平成27年8月29日帰幽)

8月のお誕生 井形由理子様、金山陽子様、古川朱美様、井形実咲様
 井形俊晴様、井形比佐子様、田村加奈様、阪上ひとみ様、安井ゆかり様、
 安井光一様、己波めぐみ様、松本智弥様、菊田昌広様

